

タレントさんの乳がん報道以来、乳がん検診についていろいろ心配されている方が多いと思います。第3回にしわき乳がん市民公開講座では、まさしく「乳がん検診について」を取り上げました。現在の日本の乳がん検診についての問題点についてもお話がありました。日本人は欧米人と比べて一般に乳腺組織が厚く、特に40代ではマンモグラフィが真白く写ってしまい、乳がんも白く写りますから、マンモグラフィ+視触診の検診での見落としの可能性は以前から指摘されていました。そして40代の方には超音波検査が有用であると言われていました。これらの背景から、約76000人が参加した大規模臨床試験(J-START)が日本で行われました。半数は従来通りのマンモグラフィ+視触診(コントロール群)、残りの半数はこれに超音波検査を併用し(介入群)、乳がん検診法としての優劣を比較するというもので結果は2015年11月3日にLancet電子版に掲載されました

(<http://www.ncbi.nlm.nih.gov/pubmed/26547101>、<http://www.j-start.org/topics/2015-11-09.html>)。超音波併用により乳癌発見率が1.5倍に、0期・I期での発見が1.8倍に増え、40代に対し、従来のマンモグラフィ検診に超音波検査を併用することで、より感度良く早期乳がんの発見ができることが証明されました。ただし、要精査率、生検率も介入群で上がりました。要精査率は、コントロール群の8.8%に対して介入群では12.6%と、超音波検査併用により感度は上がるが、不要な精査も増える(特異度が下がる)ということの意味しています。今後は、超音波併用により、感度のみではなく、特異度も上げる工夫が必要となるでしょう。いずれにしても、J-STARTの結果から、日本の乳がん検診のあり方が変わっていくと思われれます。また、その準備ともいえる、マンモグラフィと超音波検査の併用検診の場合の総合判断基準についての第1回講習会がこの11月1日につくばで開催され、参加してきました。今後、検診担当医は、マンモグラフィの読影資格のみでなく、乳腺超音波検査の読影資格、さらに総合判断基準の講習を受けることが義務付けられるようになっていくでしょう。検診率を上げることももちろん大事ですが、大前提として、検診の質が高い水準に維持されなくてはならないことは言うまでもありません。

以下、J-STARTについて、日本医療研究開発機構のプレスリリースより(2015年11月5日、<http://www.amed.go.jp/>) 図表を引用しています。



### 検診方法別の乳がん発見率

発見契機	介入群 (MMG+US)		コントロール群 (MMG)	
	36,752例中の割合 (%)		35,965例中の割合(%)	
MMG 陽性	117	0.32%	109	0.30%
MMG 単独陽性	34	0.09%	72	0.20%
US 陽性	143	0.39%	—	—
US 単独陽性	61	0.17%	—	—
視触診陽性	46	0.13%	45	0.13%
視触診単独陽性	0	0%	8	0.02%
検診結果陽性 (中間期がん)	18	0.05%	35	0.10%
検診発見がん数	184	0.50%	117	0.33%
全乳がん数	202		152	

### ステージ分類

Stage	介入群 (MMG+US)			コントロール群 (MMG)		
	検診発見 (N=184)	中間期がん (N=18)	合計 (N=202)	検診発見 (N=117)	中間期がん (N=35)	合計 (N=152)
0	51 27.7%	1 5.6%	52 25.7%	31 26.5%	7 20.0%	38 25.0%
I	93 50.5%	8 44.4%	101 50.0%	48 41.0%	18 51.4%	66 43.4%
II	32 17.4%	8 44.4%	40 19.8%	35 29.9%	9 25.7%	44 28.9%
III/IV	5 2.7%	1 5.6%	6 2.97%	3 2.6%	1 2.9%	4 2.6%
不明	3 1.6%	0 0	3 1.5%	0 0.0	0 0	0 0.0%
	184	18	202	117	35	152

### 初回検診時の生検実施状況

	介入群 (MMG+US)		コントロール群 (MMG)		合計	
	(N=36,752)		(N=35,965)		(N=72,717)	
要精検数(率)	4,647	12.6%	3,153	8.8%	7,800	10.7%
生検実施数(率)	1,665	4.53%	655	1.82%	2,320	3.19%
細胞診	1,227	3.34%	435	1.21%	1,662	2.29%
針生検	407	1.11%	176	0.49%	583	0.80%
吸引補助針生検	137	0.37%	88	0.24%	225	0.31%
外科的切除生検	42	0.11%	24	0.07%	66	0.09%

- 複数の生検を施行された症例あり
- 外科的切除生検を施行された66例の内訳として、介入群では42例中14例(33.3%)、コントロール群では24例中4例(16.7%)の乳がんが発見された